

ハスカップ畑にも大きな被害

山口善紀さんのハスカップ畑は、小高い丘の斜面に広がっており、5000本の木がうえられていたが、地震による斜面崩壊でそのうち500本が土砂にうまってしまった。

今も高さ2メートルほどのくずれた土砂がそのままになっている。地われがあつてさらにくずれるおそれがあるため、土砂をとりかこむように大きな土のうが半円形にならべられていた。

「斜面崩壊がおきたとき



鈴木悠太 記者

には大きな音がしたのでは」と山口さんに聞いた。ところが、「深夜に突然大きな揺れで目がさめた。食器だななどから物が一斉に飛びでてすごい音がし、土

と、ハスカップは1本の木から1キロの実が収穫できるまでに10年はかかるという。それだけに、山口さんはぼうぜんとしてしまった。ものすごくがっかりしたのだと思う。

取材のあと、僕が住んでいる地域のハザードマップを調べてみた。僕の家のある地域は地震の被害が大きくなりそうだった。また、港町のために津波がくる可能性があるので、家の裏には山があつて、ハスカップ畑のように斜面崩壊がおき

日本一になったハスカップ



土保篤樹 記者

厚真町の特産ハスカップの畑も、地震でくずれた土砂の一部うまった。山口善紀さんの農園は、野生の植物を品種改良し、40年かけて日本一に育てた。それだけに、ショックは大きかったと思うが、「震災をバネに全国にPRしていく」というまえむきな姿が印象的

だった。ハスカップは、ブルーベリーのような色をした小指の先ぐらいの大きさのあま

くすっぱい果実。シベリアから渡り鳥が種を運んできたといわれ、北海道の原野に

実がなると、山口さんと弟が試食して、あまい実がなる木とすっぱい実がなる木をよりわけていった。子どもがこの作業をしたのは、味覚に敏感だったからという。そして、2009

スカップを新品種として登録した。実際に畑で食べてみたら、すっぱいものが少し苦手な僕もあまくておいしいと感じた。山口さんの長年の努力が今のおいしさを生んだのだと思う。

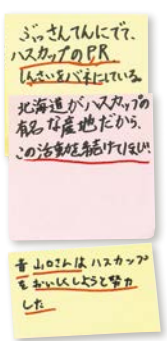
情からは、暗さを感じなかった。山口さんによると、震災の報道で町が全国に知られるようになった。新聞やテレビで「厚真町の特産ハスカップにも被害がでた」と報道され、ハスカップの知名度もあがってきた。被災地支援の意味もあつて、全国から催事や北海道物産展への出展の誘いもくるようになった。「これを機会にハスカップを全国に広めたい」という山口さん。僕の住む三重県にも出展の予定があると聞いた。ぜひ、足を運んであのおいしいハスカップを味わいたい。



ハスカップの実



土砂でうまった畑はまだ土のうが置いてある



山口善紀さん



震災の話も笑顔で説明してくれた山口さん。まえむきな姿が印象的だった



数種類の品種を食べくらべさせてもらった

